

徳島県神山町の町産材需要拡大にむけた「神山のやまを語る会」に参加しました

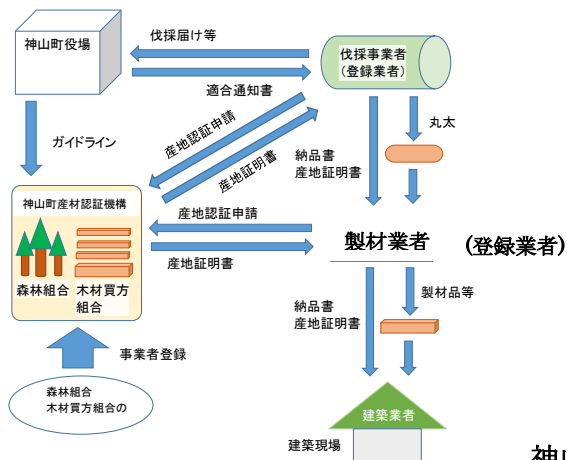
平成30年 7月 9日
徳島森林管理署

徳島県神山町が、町産材需要拡大のため平成29年8月から検討・策定中のビジョンについて、町民を対象にした第2回「神山のやまを語る会」が6月18日、同町の農村環境改善センターで行われ、署長をはじめ関係職員3名が参加しました。



92名もの町民が参加しました

神山町では、これまでも町産材需要拡大のため、平成28年度から独自の施策として「神山町産材認証制度」をスタートさせるなど、様々な取組を展開してきました。



神山町産材認証制度の仕組み

今回の「神山のやまを語る会」では、町内の様々な分野から6名の方が、町の林業や木材産業、森林資源に対する意見や要望などを発信しました。この中で、徳島森林管理署からは、日本全体の人工林資源が充実してきており、それをいかにして活用していくかが問題であること、四国4県、徳島県でも同様な状況にあることなど、現在の森林・林業の状況について説明しました。



様々な分野の町民から意見が出されました

神山町では今後、望ましい森林整備のあり方、森林の多様性に関する語る会などを開催し、今年度末までにはビジョンを策定していくこととしており、徳島森林管理署も積極的に参加していく考えです。

このように、徳島森林管理署では市町村単位の各種ビジョン作成においても、必要な支援・情報提供を行っていくこととしています。